



里見哲夫先生

下仁田町の宝物 下仁田ネギと里見哲夫先生



女性村

新聞

vol. 07
2023 Autumn

ねぎぼうず



相談室開設

相川厚 医師による 心と身体の相談室

日常生活における問題、家族間の問題、老後に対する不安等、誰しもが抱える暮らしの悩み。人間だから当然です。悩みは一人で抱えず、誰かに話すことで心が軽くなり、明日を明るく生きるためのヒントや活力を得られるかもしれません。お子様からご老人まで、気になる身体のご相談、不安や疑心暗鬼で悩んでいる方など、治療を受ける前に是非 相談室をお訪ねください。

- 開催日時** 令和5年10月20日(金) 10:00~13:00
- 場所** 女性村 ねぎぼうず(旧西牧小学校) 群馬県甘楽郡下仁田町大字西野牧4641-1
- 定員** 6名様 ※先着順での事前お申込みが必要です。(空きがある場合は当日も可)
- 相談料** 1,000円(お一人様20分) ※お子様は無料
- その他** 相川 厚医師による心と身体の相談室は毎月定例での開催を予定しています。また、相談内容が多岐に渡る場合は、個別に専門分野の先生方とも連携致します。お気軽にご相談くださいませ。

相川厚氏 プロフィール

1951年東京生まれ。慶応義塾大学医学部卒業。東邦大学医学部名誉教授。日本移植学会理事。日本子守唄協会の理事でもあり、女性やお子様の健康へのお手伝いをして頂くことになりました。



EVENT

高橋尼僧による駆け込み寺
説法相談・天台宗 心月院住職 高橋美清さん

【日時】 令和5年10月21日(土)
13:00~14:00

【場所】 女性村 ねぎぼうず(旧西牧小学校)
群馬県甘楽郡下仁田町
大字西野牧4641-1

【費用】 無料 ※事前お申込みも不要

高橋美清さん プロフィール
昌實学園群馬医療福祉大学 同短期大学 同専門学校 非常勤講師
講師 マナーや礼節を担当
伊勢崎保護区保護司会 保護司
S I A 認定 ネットセーフティアドバイザー



「西牧村本宿回想記」私の思い出
講師：黛一子さん

【日時】 令和5年10月21日(土)
14:00~15:00

【場所】 女性村 ねぎぼうず(旧西牧小学校)
群馬県甘楽郡下仁田町
大字西野牧4641-1

【費用】 無料 ※事前お申込みも不要

秋です
女性村 ねぎぼうずに来て下さい
双子ちゃんの部屋のぞいて!!
売店は秋もの揃いましたよ!!
わあ! こころって美術館なの!!
お茶のみに立ち寄ってみて!!

森は生きものの宝庫

〜里見哲夫(元教育長)のお話〜

【日時】 令和5年11月18日(土)
10:00~10:30

【場所】 女性村 ねぎぼうず(旧西牧小学校)
群馬県甘楽郡下仁田町
大字西野牧4641-1

【費用】 無料 ※事前お申込みも不要

親子で一緒に森を歩こう!!

〜全山紅葉に染まった森の中での自然体験〜

【日時】 令和5年11月18日(土)
11:00~15:00

【場所】 下仁田 農村公園
(下仁田町南野牧「荒船湖」上流の右手にあります)
※女性村 ねぎぼうずから車で送迎致します。

【集合】 女性村 ねぎぼうず(旧西牧小学校)
10:00

**【群馬県甘楽郡下仁田町
大字西野牧4641-1**

【定員】 お子様連れを含む10組
※先着順での事前お申込みが必要です。

【費用】 800円(高校生以上) 200円(小中学生)
【ガイド】 黛 治男(森林インストラクター)

【持ち物】 お弁当、飲み水、メモ書き、屋外散策用の服装・運動靴など

黛 治男氏 プロフィール
下仁田西牧小学校出身 森林インストラクター(農水、環境省認定資格) NHK文化センター講師(慶応義塾大学卒) (株) 電通 定年退社)

下仁田を訪れるようになって早や三年が過ぎようとしていて、山々に囲まれて眠る深い森の緑、流れる清流、澄んだ空気が鳥の声につつまれた自然の道を歩くと、どの道にも道祖神や野仏に出会う。この土地を調べれば調べるほど、下仁田は大変なパワースポットだ。

地元の方々と仲良くさせていただく中で、お会いする多くの方から、「是非、里見哲夫先生にお会い下さい。素晴らしい方です。」という助言があった。また、ご年配の方からは「あれほど下仁田を知り尽くし、大切にしていってほしい方はいません。」という言葉を多く耳にした。

元教育長を三期務め、植物研究者、歴史研究者でもあり、下仁田の全てを知り尽くしておられるという里見先生にお会いしに出かけたのは、八月末の残暑の厳しい夕方のことだった。お家は歴史館のそば。

かつて、下仁田で繰り広げられた下仁田戦争の折に大砲が撃ち込まれた跡か、土蔵の塀にそのまま残っている。威風堂々たる大屋敷(有形文化財ともなっている)の門をくぐる。広い座敷を爽やかな風が吹き抜ける。

95歳のかくしゃくたる老体の先生と対座することができた。下仁田ネギのことから伺いさせて頂いた。

「どこからきたか由来は分からないのです。モンゴルからと言われていますが、モンゴルであれば中国や他の国を経由して来た訳ですが、伝承経路が分かる資料はありません。」

もともと江戸時代から群馬県下仁田町や周辺の地域で栽培されていたもので、松本あたりの一本ネギも多分同種類でしょう。モンゴル砂漠の遊牧民の唯一の野菜として我が国に根付いたというドラマも壮大だ。

すでに江戸では、下仁田ネギは今というブランド中のブランドになっていたようで、文献を見ますと、浅草鳥越(当時は秋田藩の上屋敷があり、藩主は佐竹。東北地方屈指の外様大名)より下仁田ネギを送ってほしいという依頼がきたというのが、下仁田の旧家の文献に残っている。武士が江戸詰めにいくと誰かが下仁田ネギをもらい、その美味い味が忘れられなくなったのでしょうか。

下仁田「殿様ネギ」として献上している。たしかに美味しいですね。太くて短くて辛みが強くてやわらかくて、熱を加えると甘味があるといったネギだ。

参勤交代が盛んだった時代、江戸への土産などに使われ、うまいこともあって貴重な食文化として江戸に喧伝されていたのでしょう。





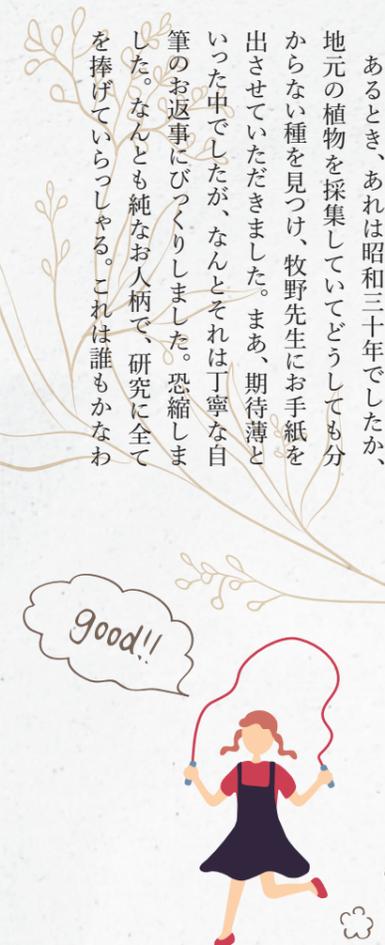
牧野富太郎先生の写真と手紙

ないと、むろん私も大いに敬服いたしました。牧野先生もその頃はもうご高齢で、老いを振り絞って書かれたであろうお手紙でしたが、それを機に若かった私は先生とお手紙のやり取りをさせていただきまし

た。「ついでには下仁田ネギを送ってほしい」という依頼が先生からありました。十月のことでネギは栽培中なので、冬まで待つて下さいと返信し、十二月に送らせて頂きました。下仁田ネギが他のネギとは違うのは、土壌や気象も大いに関係しているからでしょう。段差があり水はけがよい、陽もあたるという畑でネギものびのび育ったのでしよう。

実際、それまでは、多分そんなにネギが知られていないときは、馬山や小坂、西牧などで、栽培されていても、他の野菜が主で、自分たちの食べる程度に畑の隅の方に作っていたものです。それがだんだん全国に知られるようになった。少しずつ改良して量産できるシステムもでき、村をあげて下仁田ネギの生産に乗り出しました。昭和に入ってからです。

冬はネギで町が湧いているくらい景気もよく街も活気がありました。



話し合い、提案し、実行する 女性たちの集まりを作りたい

日本子守唄協会理事 西館 好子

時代は大きく変化しています。今までの常識や倫理観が通用しません。生活も生き方も多様化、考え方も思想も宗教も自由です。

それなのにすべての格差は広がり、少子高齢化の波はとどまることはなさそうです。

デジタルやAIの世界が拡大し、情報過多の世の中にあつて、女性の生き方がより大きな社会の課題となつてきました。

話し合いは現実を変える力のない無力なものであつてはなりませんし、具体的な提案を生み、その実行をもたらす：：そんな意欲と実行ができる女性たちが、今こそ志を持って集まれたらと考えます。

確かに以前にも増して、社会に対する女性の役割は大きくなつています。

しかしながら、女性がいなければ社会が成り立たないという証明は、まだまだ日本では曖昧です。

家庭も子育ても大事ですが、家にいることを望むのであれば、その母親が家にいられる経済的援助が必要です。また、研究や知的労働、また働きたいという意志に基づくすれば、それはその人自身が決断することであり、家族という良き理解者の元、女性も社会になくはな



♡

B



今となつては高齢化と採算が合わない、後継者がいない、大きく言えば農業がすでに一次産業として形をなしていない、という事で年々ネギ農家は減つていきます。この先は、町や住んでいる人がよほど心していかないと先細り、町が一丸となつてやらないではならないのに。

私は自分の住んでいる町の歴史や未来への展望は大切だと思います。上州下仁田は日本一のブランドネギを持つている。この名品を必死になつて広げるのに、子ども少ないと若者もいないというので下火にしてはいけませんよね。まあ、おいは眠つていてはだめだと自分にも言い聞かせているんです。

日本子守唄協会では、旧西牧小学校の校庭の花壇を利用して下仁田ネギを栽培している。種は昔からのままのものを使い、今では見事な実りを青空に向かって茂らせている。このネギを女性村初「殿様ネギ」としようかしらと思つているのです、と里見先生に申し上げた。



旧西牧小学校の校庭の花壇に茂る下仁田ネギ

女性村ねぎぼうずの看板がたちました。

町のご紹介

女性の自立は本当に難しい。自分のことだけでなく、自立できない親に育てられた子どもは自立できません。経済の自立、生活の自立、考え方の自立は、日常生活の自立への考え方から始まります。しかし、どんな女性もまず、自立の覚悟から始めなければなりません。

私の能力の生かせる居場所があればいいと思つている方は多いです。子どもがいれば安心して自然の中で子育てできる、ということもできるでしょう。

群馬県下仁田では、そんな人たちが教室という空間を生かして自立の場を作っています。

苦勞の末に世界的ピアニストになったフジコ・ヘミングさんが寄贈してくださったピアノ、心を休めるために多くの画家たちも絵画を提供してくれています。絵画は販売もされています。ダンスに眠っている着物で楽しい作品も製作、展示、販売されています。

手仕事、園芸家、画家、ミニチュア芸術作家、作家とマルチな才能の鬼才「多田欣也」氏制作の「看板」が国道に、入り口から姫街道筋にひとつ、西牧(さいもく)小学校までの道しるべとして設置。最後は「ねぎぼうず入り口」に。計3つ立ちました。

